



書評

[評者]

竹内 勤

慶應義塾大学名誉教授

頭痛の診療 ガイドライン 2021

日本神経学会, 日本頭痛学会,
日本神経治療学会 監修
頭痛の診療ガイドライン作成委員会 編

●B5 頁512 2021年10月
定価: 5,940 円 (本体 5,400 円+税 10%)
[ISBN978-4-260-04698-5] 医学書院刊



頭痛の診療ガイドラインは、2002年に『慢性頭痛治療ガイドライン2002』として初版が発刊されて以来、わが国の頭痛診療の標準化に大きな役割を果たしてきた。今回、2013年の改訂版『慢性頭痛の診療ガイドライン2013』から大幅な改訂がなされ、また、タイトルも『頭痛の診療ガイドライン2021』として関連学会が共同監修したもので、まさに頭痛診療を全て網羅した大作である。これを主導した先生方のご努力は大変なものであったと思うが、そのご功績に盛大なる拍手をお送りしたい。

今回のガイドラインは、『Minds 診療ガイドライン作成の手引き』2014年版に準拠して作成され、一部のクリニカルクエスション (CQ) では患者さんやメディカルスタッフが参加する GRADE システムが導入された。また、二次性頭痛の項目が新たに加えられ、この数年間で飛躍的な進歩を見せた抗 CGRP 抗体や抗 CGRP 受容体抗体などによる最新治療までも触れられている。最新の手法を取り入れ、最新のエビデンスに基づいて、頭痛診療の広範な領域を包含し、ていねいな CQ によって構成された、素晴らしい診療ガイドラインである。

驚いたのは、その CQ の内容の豊富さである。通常のガイドラインであれば、診断、評価、治療などが中心に構成されるところであるが、本ガイドラインにおいては、疫学、病態、医療体制、患者指導など、まさに診療の現場で患者さんやその家族から投げかけられる疑問に答える内容となっている。各 CQ に対して、推奨は、太枠内に簡潔にまとめられ、その背景・目的と、解説・エビデンスに続き、検索式・参考にした2次資料が掲載されている。興味のある読者はエビデンス構築の基となった資料に容易にアクセスでき、大変便利で統一された紙面である。さらに、本文473ページにも及ぶ大部であるが、巻末には、英文と和文の索引があり、目的とする項目に素早くたどり着ける工夫がなされており、診療現場で大きな力を発揮すると思われる。同時に、医学教育的な価値も大変高く、頭痛の専門診療のみならず、幅広い分野の日常診療、医師以外のメディカルスタッフや行政の場など、さまざまな場面で本書を活用していただければ幸いである。